

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	大津市立 和邇保育園
代表者氏名（管理者）	園長 野本 千明
法人名	大津市
定員（利用人数）	140名
施設・事業所所在地	滋賀県大津市和邇中172-1
T E L	077-594-0063
F A X	077-594-0200
電子メール	nomoto_chiaki@otsu.city.lg.jp
ホームページアドレス	https://www.city.otsu.lg.jp/kosodate/yoho/hoiku/annai/index.html

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
評価実施期間	令和元年12月5日・12月6日

3 評価の概要

○ 総合評価

和邇保育園は、昭和29年に和邇村立和邇保育所として開所した、歴史ある大津市立の保育園です。昭和56年に現在の場所へ新築移転しました。大津市北部に位置し、比良山系や琵琶湖が望める自然豊かな環境にあります。近年は、交通の利便性もあり、京阪神への通勤圏として宅地化が進み、子育て家庭が増えています。園の保育テーマとして『心も体もいきいきと～みよう・きこう・つながりあおう 夢中になって遊ぶ子どもをめざして～』を掲げ、人としてたくましく生きる力の基盤づくりとして、乳幼児期にしか体験できない夢中になって遊ぶ子どもを目標に保育に取り組んでいます。旧志賀町から引継がれた「和邇児童憲章」の理念を大事にしていることから分かるように、園児は地域によって温かく見守られ、育てられる存在です。園長は経験・知識豊かで、子どもの最善の利益を考えた取り組みを行っています。その成果として、園児は主体性を持ち、明るく、元気に、たくましく育っています。同園には、他の保育園には見られない広い園庭があり、恵まれた保育環境のなかで園児はのびのびと過ごしています。

○ 特に評価の高い点

① 子どもの主体性を尊重した保育への取り組み

園長や保育士、職員は、保護者や地域住民などと連携を図りながら、子ども一人ひとりの成長を温かく見守っています。クラス別の年間目標を立て、前半期と後半期に分けて、環境の工夫・子どもの反応・分析を行い、目標の評価と次への課題を設定したPDCA手法での保育を実践しています。保育研究では、ドキュメンテーションシートを活用して、子どもの主体性を引き出し、自ら考え、行動し、表現する力を育むよう取り組んでいます。

② 地域との関係を大切にした保育

これまでの園の歴史からもわかるように、園と地域は強い関係で結ばれており、今後もこの関係を維持・発展させていく取り組みが行われている。「和邇保育園協力者会議」、「まちづくり協機会」、「比良山麓子ども会議」、今年から始まった「コミュニティースクール」への参加等々、様々な地域との連携を図っている。また、地域の人達とのシニア交流や「小野妹子祭り」、「わにっ子ギャラリー」への参加、園内の花交換、読み聞かせ、シニアの健康教室など地域ボランティアとの交流など、園児と地域との関係を深めながら、地域全体で子どもたちを育ていく和邇独特の文化を感じます。

③ 安全・安心な保育サービス提供のための取り組み

園独自で散歩時の交通事故等防止のため、安全な散歩コースを記載した「和邇保育

園散歩コースマップ」を作成している。散歩途中の危険個所も記載して職員間で共有している。また、保育園施設内での「危険&お約束マップ」を職員の意見を集約して作成し、大画面の用紙で玄関廊下に張り付けている。このように園全体でリスク管理に取り組み、職員は園内外の危険個所を共有し確認している。更に、このマップを保護者や地域へ公開され、幅広い情報を集約することで、マップの更なるバージョンアップが図れると考えます。

④ 職員への研修体制の充実と働きやすい職場環境

園内研修が充実している。更に、市としてのキャリア別年間研修計画が立てられ、職員個々の担当・経験等に応じた研修計画（新任研修、対象別研修）のもと研修目的を明確にして、職員を外部研修へ積極的に派遣している。また、職員は必要時には先輩保育士や上司に相談しやすい対応を取っており、職員間で調整しながら夏季休暇等も取得しやすくしている。休憩室も設置されている。職員はそれぞれの立場から園の運営に積極的に参画し、やりがいを持って楽しく仕事に取り組んでいることが、職員ヒアリングから聞き取れました。

○ 改善を求められる点

① 保護者等への情報伝達と共有について

保護者アンケートの結果から、園から保護者等へ発信した情報が十分伝わっていないことが推測できます。そこから園の考えと保護者等の思いに齟齬が生じる恐れがあります。今年から運用を開始した「緊急連絡情報メール」や園内での掲示、イベント等での周知、送迎時の個別面談、ホームページなど様々な広報媒体を使って、必要な情報を伝えていくことが必要です。

また、日常の子どもの様子や園の保育に対する理念や保育目標、保育テーマ等だけでなく、大津市立保育園全体として、今後の市立保育園のあり方・運営方針などの大津市の考えも含め、ホームページだけでなく様々な媒体を活用され、保護者や地域住民へ周知、広報されることを望みます。

② 給食室の透明性のある運営のための取り組み

現在、和邇保育園の調理室で、隣接する「大津市北部子ども療育センター」の給食を一緒に作っている。現時点では致し方ないことと認められるが、給食担当職員の負担や、隣までの配膳車の移動による衛生面など、課題も見られる。今後の事業計画の中で一定のルール化など、改善策を検討されることを期待します。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度、保育運営の指揮監督を担う園長、代表保育士が人事異動により同時に交替し、子ども一人一人の顔と名前を覚えて一致させ、各園児の保護者さんの顔を覚えるところから始まった。年度半ばにして、保護者アンケートが実施され、保護者さんにしてみれば、信頼関係も十分に構築できているとは言えない状況にあることは容易に想像できる。積極的に挨拶し、機をとらえて関係構築に努めるものの、半年間では全保護者が気軽に何でも相談できる関係にないことは否めない。しかし、今後も信頼関係の構築に努めるのみである。

園から保護者等へ発信した情報が十分に伝わっていないことについて、伝え方の工夫が必要であり、保護者のメール配信受信率を100%にしたことや、玄関入ってすぐの壁面を情報発信プレイスに改造したこと、園からの発信文書には専門用語を使用せずに誰にでも分かりやすい平易な文書表現に努めていること、全世帯周知内容については、保育室出入り口の扉に掲示スペースを設けて情報提供していること、多くの保護者が参加する行事の機会をとらえて、映像による子どもたちの様子の紹介や園の取り組みについて発信してきたことなど、今後も保護者の反応を見ていきながら、より様々な媒体を活用して情報発信を工夫し続けていきたい。

給食室の透明性ある運営については、1月に所管課と隣接療育施設と当園の三者で話し合いを行い、業務改善を行ったところである。

今回の第三者による園評価により客観的に改善点が得られたことは貴重であった。このことを真摯に受け止め、保護者さんが安心して保育園にわが子を預けられるよう、目指す方向性に向かって職員が一丸となり、取り組んで参りたい所存である。